

いろは文字録（その三十五一和洋混淆）

沙翁再登場

莎翁成泰

いろはにほへと ちりぬるを  
わかよたれそ つねならむ  
うゐのおくやま けふこえて  
あさきゆめみし 焼ひもせず  
色は匂へど 散りぬるを  
我が世誰ぞ 常ならむ  
有為の奥山 今日越えて  
浅き夢見じ 酔ひもせず  
(ん)

一 岩代道路 路傍にまつは はて枝引くに 和皇子の顔

星運憂へ

変転大和

磐代の

浜松が枝を

引き結び

真幸くあらば また還り見む

(万葉集卷二一一四一 有間皇子)

二 供連れ荒地

朕は王なり

リア流離ひぬ

脱殻となる

涙雨晴れぬを

をうをうと不和

和も輪も無きか

かく王亡き世

(シェークスピア『リア王』)

三 よき山の方

激つや流れ

麗景そこぞ

それmycar発つ

月夜浮舟

寝待酒の名

名美しき温泉ら

来遊残夢

四 無類勇猛 むるいゆうまつ 腕鳴らす武威 ぶゐ 偉夫マクベスの あふ 野に三魔女おお  
 驚き深く くす 奇しき言や こと 野心湧くまま 野に氣は裂け  
 堅夫武士 けんふ もののふ 不義に落つる子

(シェークスピア『マクベス』)

五 この山を越え 得ずや背子の手 せこ てんじやう 天上にああ あさけ すぢ  
 小夜に送りき 君の背に露 ゆか 行く方眺め めぐ 愛き君の身

身の上空し 然若き故 ゆゑ

わが背子を 大和へ遣ると や さ夜深けて 晓露に わが立ち濡れし

(万葉集卷二一一〇五 大伯皇后)

六 絵筆風問ひ 広き天にも そら

物画きだせ 雪月花成す せつげつくわ

天紙風筆畫雲鶴 (懷風藻 大津皇子)

一一〇二五年(令和七年)九月九日

註

一 有間皇子(ありまのみこ) = 孝徳天皇の皇子(六四〇—六五八)。齊明天皇四年(六五八)、蘇我赤兄に謀反を唆され、捕らえられて、齊明天皇、中大兄の滯在する紀州牟婁(むろ)の湯(今、白浜温泉)へ送られ取り調べ。日本書紀(齊明紀四年)に、皇太子(中大兄)「何の故か謀反(みかどかたぶ)けむとする。」有間皇子「天と赤兄と知らむ。吾全ら解らず。」京への帰途、藤(あめ)おれもは)とし)みやこ)の藤

代の坂（和歌山県海南市）で処刑。万葉集に残された皇子の二首は、齊明、中大兄のもとへ護送される途中の作。

浜松が枝を 引き結び || 草木を結んで幸福を願う信仰があつた（斎藤茂吉「万葉秀歌」）。木の枝や草の茎葉などを結ぶことによつて：何らかの願わしい事態が実現することを期待した（小学館新編日本古典文学全集）。

まさき  
真幸くあらば || もし許されて無事でいられたら。

いはしろ  
岩代道路 || 当時の彼らが通つた道を言うが、今、国道42号線の岩代小学校前から西へ（大阪方面へ）一キロほど、海側に有間皇子結び松の碑が建つていて。（標識らしいものもなく目立たない。）

ろばう  
路傍にまつは || 松と待つ。立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来る、に倣つて掛詞にしてみた。

にきみ  
和皇子の顔 || 和は温和な、おだやか、やわらかい。

ほしうんうれ  
星運憂へ || 有間皇子は、大化革新（六四五）で父が天皇（孝徳）となり、皇位継承の可能性もあつたが、それが中大兄にとつては問題。時の運にも恵まれなかつたか。

ニ『リア王』 || シエークス・ピア四大悲劇の一つ。老王リアが隠退するにあたり、国土を三人の娘に分け与えることにして、自分に対する愛が最も深いものに最大の地を与えると言う。長女、次女は言葉を尽くして甘言を並べたのに對し、純真な三女コーデリアは諂いの言葉はおろか、「なにもございません。娘の務め相応にお父様を愛しております。」と短く言つただけ。愛してやまぬ末娘のこのわづかの言葉に怒つた王は三女を勘当。その後、長女、次女の裏切り、虐待に荒野をさまよい、最後にはコーデリアの亡骸を抱いて狂乱のうちに息絶える。

ともつ  
供連れ荒地 ちんわう  
朕は王なり || 娘らに捨てられた老王、道化師一人を伴つて嵐の荒野をさすらう。すでに半狂乱。

をうをうと不和＝をうをうは泣き叫ぶさま。国土分与の件以来娘たちとの仲、血族関係の争い等多々。

三名美しき温泉ら＝「名美し」は名が美しい、名高い。「ら」は語調を整える接尾語。

四『マクベス』＝シェークスピア四大悲劇の一つ。スコットランドの勇敢な将軍マクベスは戦場からの帰り、荒野で出逢った三人の魔女から、将来国王になるとの不可思議な予言を受け野心に駆られるが躊躇するのを、夫人が国王暗殺計画を立て急かせる。国王を殺害したマクベスは予言通り新国王となるが、内心の苦しみに苛まれ、別の将軍が近々国王になるとの魔女の言葉におびえ、その将軍を殺し暴政をしく。イングランド軍が攻めてきたとき、「森が動いてこない限り勝利は自軍に」、「相手が女が生んだ者である限り勝てる」との魔女の予言を信じたが、敵兵は木の枝で身を隠して前進、森が迫つてくるとだまされ、一騎討の相手は、月満たずして母の腹を裂いて出されたのだと知らされた。予言に翻弄された勇士マクベスの末路。

五大伯皇女＝天武天皇の皇女。大津皇子と同母姉弟。十三歳で斎宮となり伊勢に赴く。

(斎宮となつた最初の皇女)。弟の謀反事件により任を解かれた。万葉集に残る歌は六首。みな弟を詠んだ歌。

大和へ遣ると＝大和へ帰そと。

あかときつゆに＝「あかとき」は「あかつき」の上代語。

得ずや背子の手＝背子は女性が兄や弟、夫や恋人を呼ぶ言葉。

君の背に露＝本歌では作者が露に濡れたと歌っているが、悲運の弟の背を押すように送り出す姉の手の感触とした。

六天紙風筆畫雲鶴||天の紙に風の筆でのびのびと絵を描く。『懐風藻』にある大津皇子の「七言 述志」。この句に続く「山機霜杼織葉錦」は「その三十三」でも言及した。

大津皇子||天武天皇の第三皇子。大伯皇女の同母弟。母は天智天皇女大田皇女（持統天皇の同母姉）で早くに死別。「体格堂々。若くして学を好み、武を愛す。人士を礼遇、多くの者が従つた」と懐風藻にあり、「詩賦の興、大津より始れり」と日本書紀に言う。衆望をになつたが、天武崩御の後謀反発覚逮捕、翌日処刑（二十四歳）。謀反は新羅の僧行心のそそのかしと懐風藻にあるが、我が子草壁皇子を庇護する持統天皇の策によると言われている。大津皇子の辞世の歌は卷三

一四一六に

ももづたふ  
磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見てや 雲隠りなむ

（懐風藻にも、「五言。臨終一絶」と題する詩がある。）

## 後記

前作でハムレット、オセロを取り上げたので、残る四大悲劇の二作をほうつておくわけにはいくまい。シェークスピアを再登場させた。

岩代の結び松は、今年春伊勢鳥羽からの帰り、二度目か三度目だがこの結び松を見ようとして熊野紀伊の海沿いを走つてきたわけである。その時を思い出してファイクションも混ぜて一番と三番ができた。

五、六は有間皇子と並ぶ悲運の皇子、大津皇子。